千葉大学教育学部研究紀要　第60巻　401～406頁（2012）

副詞セイゼイと類似表現の考察

安　部　朋　世

千葉大学教育学部

An Analysis of ‘*Seizei*’ and Its Similar Expressions

ABE Tomoyo
Faculty of Education, Chiba University, Japan

本稿は，とりたて用法を有するとされるセイゼイの構文的特徴を再考察し，それを踏まえて類似する他の表現の特徴を分析することで，とりたての意味の生ずる条件について考察することを目的とする。まず，とりたて用法を有するとされる副詞セイゼイについて，その構文的特徴を再考察し，〈「ＸハＹ程度ダ」というように，ある物事の程度性を問題とし，当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文（節）と共起する〉ことを示した。それを踏まえ，とりたて用法のセイゼイと類似する意味を有する他の表現，具体的には，副詞的に働く多クテモ，従属節を導くテモ・トシテモについて，その特徴を分析し，共通点と相違点を示した上で，先に示したセイゼイの構文的特徴が，とりたて用法の意味が生ずる重要な条件となっていることを指摘した。

キーワード：とりたて（TORITATE）　セイゼイ（‘*Seizei*’）　多クテモ（‘*Ōkutemo*’）　テモ（‘*Temo*’）
トシテモ（‘*Toshitemo*’）

１．はじめに

本稿は，とりたて用法を有するとされるセイゼイの構文的特徴を再考察し，それを踏まえて類似する他の表現の特徴を分析することで，とりたての意味の生ずる条件について考察することを目的とする。具体的には，２．で，とりたて用法のセイゼイについて，先行研究の問題点を指摘し，構文的特徴を再考察する。それを踏まえ，３．で，類似する表現の多クテモ，テモ，トシテモについて，セイゼイとの比較からその特徴を分析し，とりたての意味が生ずる条件について考察する。

２．とりたて用法のセイゼイの構文的特徴

安部（2006）では，セイゼイの用法を，「できるだけ」と類似する意味を有する用法（(1)(2)）と，「たかだか」と類似する意味を有する用法（(3)(4)）の２種類に分類し，後者をとりたて用法とする[*1]。

(1) a　それじゃ、セイゼイ頑張って。
（安部2006(17)（女社長））[*2]
b　それじゃ、できるだけ頑張って。

(2) a　あたしもセイゼイものわかりのいい母親になりましょう。　（安部2006(18)（聖少女））
b　あたしもできるだけものわかりのいい母親になりましょう。

(3) a　猫背の、異様に背の高い男で吟子はセイゼイその肩くらいまでしかない。　（安部2006(38)（花埋み））
b　猫背の、異様に背の高い男で吟子はたかだかその肩くらいまでしかない。

(4) a　あの子のお母さんという人がとてもよくできた方でございましてね、それはもう子供の教育によく気をお使いになったそうで……なにしろ田舎のことでございますから娯楽といってもセイゼイ地方廻りの村芝居ぐらいしかやっておりませんでしょう。
（安部2006(39)（裸））
b　あの子のお母さんという人がとてもよくできた方でございましてね、それはもう子供の教育によく気をお使いになったそうで……なにしろ田舎のことでございますから娯楽といってもたかだか地方廻りの村芝居ぐらいしかやっておりませんでしょう。

そして，とりたて用法は，「程度化された表現と共起する用法である」（安部2006：205）と指摘する[*3]。(3)(4)は，「セイゼイその肩くらい」「セイゼイ地方廻りの村芝居ぐらい」のように，「くらい」「ぐらい」といった表現によって，「その肩程度」「地方廻りの芝居程度」という解釈が成される例であり，次の(5)は，数量詞と共起し，数量詞自体が有するスケールによって程度化される例である。

(5)　三銭じゃ、セイゼイ三きれだな。（安部2006(44)（楡））

また，次のように，「くらい」等の程度表現は共起していないが，「産まれる前→赤ん坊→幼児→…→青年→…」といったスケールが想定され，そのスケール上に位置づけられることで程度化解釈が成される例もある。

(6)　わたしたちの父親がいかに日夜寝る間もなく病院のために骨身をけずってきたか、誰もが知っている通り楡病院は先年創立十五周年を迎えた、だがそれは青山に新築してからのことだ、本郷に医院をかまえてからは三十何年がとうに経っている、その間わたしたちの母親はどうしていたか、どんな苦労をなめたか、お母さまは夫が養っている大勢の書生たちの醤油を水で薄めたのだ、自分はたくわんの尻っぽを齧ったのだ、そうしないと医院はつぶれてしまうところだったのだ、

連絡先著者：安部朋世

と龍子は、その頃は自分だってセイゼイ赤ん坊だったことを棚にあげて説きすすめた。（安部2006⑷⑸（楡））

しかし，単に「程度化された表現と共起する」と記述したのでは，以下のような例で不自然になることが説明できない。

⑺ａ　この１週間でお弁当を２回作った。

ｂ??この１週間でお弁当をセイゼイ２回作った。

⑻ａ　新幹線で京都まで行った。

ｂ??新幹線でセイゼイ京都まで行った。

⑼ａ　いまなら逃げても間に合う。だが、ぐっと踏みとどまって戦おうというこの男らしさ。鰐が三メートルぐらい手前でとまった。ジョンは一歩しりぞく。（ブン）

ｂ??いまなら逃げても間に合う。だが、ぐっと踏みとどまって戦おうというこの男らしさ。鰐がセイゼイ三メートルぐらい手前でとまった。ジョンは一歩しりぞく。

⑽ａ　子供たちはおどろくほど大人たちの話を敏感にききとって、大人たちと同じぐらい熱心に、話し合うものである。（塩狩峠）

ｂ??子供たちはおどろくほど大人たちの話を敏感にききとって、セイゼイ大人たちと同じぐらい熱心に、話し合うものである。*4

⑺から⑽は，いずれも程度化された表現を含む例文であるが，セイゼイを接続すると許容度が下がる。つまり，とりたて用法のセイゼイ文は，単に「程度化された表現と共起する」と記述するだけでは不十分だといえる。

では，とりたて用法のセイゼイの構文的特徴はどのようなものであろうか。

結論を述べると，単に「程度化された表現と共起する」のではなく，〈「ＸハＹ程度ダ」というように，ある物事について，程度性の側面から，どの程度かを述べる文（節）に共起する〉と考えられる。以下，具体的に用例を見ていくことにする。

まず，これまでに挙げたとりたて用法のセイゼイ文のうち，「くらい」を伴う例を再掲する。

⑾　猫背の、異様に背の高い男で吟子はセイゼイその肩くらいまでしかない。（＝⑶ａ）

⑿　…（略）…なにしろ田舎のことでございますから娯楽といってもセイゼイ地方廻りの村芝居ぐらいしかやっておりませんでしょう。（＝⑷ａ）

⑾（＝⑶ａ）は，「吟子の身長はその男の肩程度だ」ということを述べる文にセイゼイが共起している。また，⑿（＝⑷ａ）は，「娯楽は地方廻りの村芝居程度だ」ということを述べる文だということができる。

次の⒀は，「程度」という表現を伴い，「千種越という経路は，近江の東部山岳地帯の木樵か猪追いが知っている程度だ」ということを述べる文だと解釈することが可能である。

⒀　八方、調べて、千種越という、近江神崎郡から伊勢三重郡にぬけるおどろくべき嶮路を発見した。セイゼイ近江の東部山岳地帯の木樵か猪追いが知っている程度で、道も道といえるほどのものではなく、谷川を伝い、山の鞍部を越えてゆく、いわば鹿の通り道のような経路である。（国盗り）

⒁は，「に過ぎない」という表現を伴い，「この男のしていることは，畠を指さして米国になにか言っていたり，鶏小屋のわきでは坐している米国のそばに突っ立って，「トットットウ」というような声を――単に声だけをあげている程度だ」ということを述べる文だといえる。

⒁　この男もべつだん働いてはいなかった。セイゼイ畠を指さして米国になにか言っていたり、鶏小屋のわきでは坐している米国のそばに突っ立って、「トットットウ」というような声を――単に声だけをあげているにすぎなかった。（楡）

先に，数量表現を伴う例⑸を挙げたが，その例も，次のように，「三銭で買えるのは三きれだ」という文だと解釈できる。

⒂　三銭じゃ、セイゼイ三きれだな。（＝⑸）

程度性を想起できる名詞表現の例⑹についても、「その頃の龍子の年齢は赤ん坊程度の年齢だ」という節を含む文だと考えられる。

⒃　…（略）…龍子は、その頃は自分だってセイゼイ赤ん坊だったことを棚にあげて説きすすめた。（＝⑹）

セイゼイ文には，「ＸハＺカＹ程度ダ」という形で，比較表現Ｚが文脈に明示される例もある。次の⒄は，「自分の分際もわきまえぬ大法螺吹き」が文脈に明示され，それとの比較で程度性が想起される例であるが，これも同じく，「私の評価は，救いようのないおっちょこちょい程度だ」というように，「ＸハＹ程度ダ」ということを引用節で述べる文だと解釈できる。

⒄　彼はきっと、私を自分の分際もわきまえぬ大法螺吹き、よく見てもセイゼイ救いようのないおっちょこちょい、と，軽蔑しているに違いない。（若き）

次の⒅は，「ＸハＹクライガＺダ」という形になっているが，「Ｚダ」が「関の山だ」であり，「ＹクライガＺダ」全体で程度表現と解釈できる，すなわち，「雑誌に転載されるモノクロームの作品は，フォルムやパターンを知る程度だ」という文だということができる。

⒅　また、そうした展覧会の代表的作品が美術雑誌に転載されることもなくはないが、印刷がわるくて、原画の色感がよくわからない。モノクロームになると、セイゼイフォルムやパターンを知るくらいが関の山だ。（裸）

次の⒆や⒇のように，「ＸハＹガセイゼイダ」という形の文も見られる。

⒆　東京へ弔問に飛んで行こうにも、私には金がなかった。老師からもらう小遣は月五百円にすぎなかった。母はもとより貧しい。年に一二度、二三百円位ずつ送金してくるのがセイゼイである。（金閣寺）

⒇　別にたいした用事もなく、あるといっても、鯨やんや川ちゃんに、「今夜どこかで酒でも飲む予定があるかい」などということを聞いてみるのがセイゼイだから、そこにいちいち会社の常務が出てきて取りつぐ、というのはどうもこまる話だった。（新橋）

これらも，⒆は「母の財政状況は，年に一二度，二三百円位ずつ私に送金してくる程度である」，⒇は「電話の用件は，鯨やんや川ちゃんに，「今夜どこかで酒でも

飲む予定があるかい」などということを聞いてみる程度だ」と，いずれもある物事の程度を述べる文だと解釈することができよう。

さらに，㉑のように，「ＸハセイゼイガＹダ」という形の文も見られるが，これも，「岬の延長は，化粧剥げした，小高い砂丘といった程度だ」ということを述べる文だと解釈できる。

㉑　岬の延長が、部落を抱き込むように、次第に奥に曲りこみ、東側の入江まで達して、部落の通路を狭い一本の道にしぼっているわけだが、その辺になれば、もう岬の屏風岩も終って、セイゼイが化粧剥げした、小高い砂丘といった程度のものらしい。　（砂の女）

以上，とりたて用法のセイゼイ文の構文的特徴をまとめると，次のようになる。

㉒　とりたて用法のセイゼイ文の構文的特徴：
とりたて用法のゼイゼイは，「ＸハＹ程度ダ」というように，ある物事の程度性を問題とし，当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文(節)と共起する。

3．とりたて用法のゼイゼイと類似する表現

3.1．多クテモ

とりたて用法のゼイゼイと類似する表現として，副詞的に働く「多クテモ」等がある[*5]。とりたて用法のセイゼイ文には，次のように，セイゼイを多クテモと置き換えても，許容度に差はなく，ほぼ同じ意味に解釈される例が存在する。

㉓ａ　年は、おどろくほど若い。顔に童臭をのこしていて、十九かセイゼイ二十ぐらいにしかみえないのである。　（国盗り）

ｂ　年は、おどろくほど若い。顔に童臭をのこしていて、十九か多クテモ二十ぐらいにしかみえないのである。

㉔ａ　彼らの肺や足は陸棲動物のそれである。泳いだところでセイゼイ時間にして一〇分から三〇分、距離にして八〇メートルから二五〇メートルくらいしかもたないのだ。　（パニック）

ｂ　彼らの肺や足は陸棲動物のそれである。泳いだところで多クテモ時間にして一〇分から三〇分、距離にして八〇メートルから二五〇メートルくらいしかもたないのだ。

また，多クテモと共起する文は，とりたて用法のセイゼイ文と同様，「ＸハＹ程度ダ」というように，ある物事について，程度性の側面から，どの程度かを述べる文である点が共通している。次の例を見られたい。

㉕　「追い出し猫」は焼き物の民芸品で、400年ほど前から伝わる民話に由来する。…（略）…製造・販売している若宮町追い出し猫振興会（安永孝義会長）によると、型抜きから絵付け、梱包（こんぽう）まですべて手作業で１日に多くても20個ほどしか製作できないという。

（毎日2009．５．29朝刊）

㉖　村では、高齢者が人知れず死亡するケースはこれまで、多くても年に１件しかないという。

（毎日2009．７．30夕刊）

㉗　10月から始まるフジテレビのドラマ「不毛地帯」では、昭和30年代が主要舞台の一つとなる。…（略）…CGは通常の現代劇なら多くても一話10カットだが今回は数百カット。

（毎日2009．９．７朝刊）

㉘　また「字幕は１行14文字、多くても２行までという文字数制限の世界。難しいけれど、パズルを作っているような面白さがある」と語り、これまで携わった映画を例に挙げながら、字幕翻訳の苦労や喜びを明かしました。　（毎日2009．10．10朝刊）

㉕は「民芸品の一日の制作数は，20個程度だ」，㉖は「村で人知れず亡くなる人数は，年に１件程度だ」，㉗は「これまでの現代劇でのCG数は，一話10カット程度だ」，㉘は「字幕の行数は，２行程度だ」というように，いずれも「ＸハＹ程度ダ」ということを述べる文（節）だと考えられる。

これらの多クテモは，単に程度表現と共起するだけでは不自然になる点も，とりたて用法のセイゼイと同様である。次の㉙ａ㉚ａは，いずれも過去の出来事を描写する文であるが，それらに含まれる数量表現に多クテモを共起させる（㉙ｂ㉚ｂ）と，単に出来事を描写する文としての許容度が下がるように感じられる。

㉙ａ　夕食にご飯を３杯食べた。

ｂ??夕食にご飯を多クテモ３杯食べた。

㉚ａ　休日にプールで1,000メートル泳いだ。

ｂ??休日にプールで多クテモ1,000メートル泳いだ。

しかし，多クテモが全てのセイゼイと置き換え可能なわけではない。㉓から㉘のように，数量表現と共起する場合は自然な文となるが，事物をある基準で序列化したものの場合，許容度が下がるように感じられる。

㉛ａ　天が与えた品というものがある。その骨柄ではゆくゆくわしの侍大将はつとまるまい。セイゼイ歩卒じゃ。　（国盗り）

ｂ??天が与えた品というものがある。その骨柄ではゆくゆくわしの侍大将はつとまるまい。多クテモ歩卒じゃ。

㉜ａ　実は彼は欧洲に連れられて一度だけ狩猟に行ってみたことがある。それが並々ならず難行軍の猟であったため、彼は一度で懲々し、セイゼイステッキをかまえて獲物を撃つ気分だけを味わうにとどめているのであった。　（楡）

ｂ??実は彼は欧洲に連れられて一度だけ狩猟に行ってみたことがある。それが並々ならず難行軍の猟であったため、彼は一度で懲々し、多クテモステッキをかまえて獲物を撃つ気分だけを味わうにとどめているのであった。

㉝ａ　筆者のような小市民のばあいは、セイゼイ浮世の面倒から離れて、出来もせぬわび住いを夢に恋う程度にすぎないが、この男のばあいは、たががパラリとはずれて、いっぴきの攻撃的生きものがうまれた。

（国盗り）

ｂ??筆者のような小市民のばあいは、多クテモ浮世の面倒から離れて、出来もせぬわび住いを夢に恋う程度にすぎないが、この男のばあいは、たががパラリとはずれて、いっぴきの攻撃的生きものがうまれた。

このようにセイゼイと異なる振る舞いを見せるのは，多クテモが含む「多い」の語義によるものだと考えられる。次の㉞において，セイゼイを多クテモに置き換えても許容度が下がらないのは，「近江の東部山岳地帯の木樵か猪追いが知っている程度」の部分が，「千種越を知っている人数」とも解釈できることからであろう。

㉞ a　八方、調べて、千種越という、近江神崎郡から伊勢三重郡にぬけるおどろくべき嶮路を発見した。セイゼイ近江の東部山岳地帯の木樵か猪追いが知っている程度で、道も道といえるほどのものではなく、谷川を伝い、山の鞍部を越えてゆく、いわば鹿の通り道のような経路である。　（＝⑬）

b　八方、調べて、千種越という、近江神崎郡から伊勢三重郡にぬけるおどろくべき嶮路を発見した。多クテモ近江の東部山岳地帯の木樵か猪追いが知っている程度で、道も道といえるほどのものではなく、谷川を伝い、山の鞍部を越えてゆく、いわば鹿の通り道のような経路である。

以上のことから，多クテモは，「ＸハＹ程度ダ」というように，ある物事について，程度性の側面から，どの程度かを述べる文である点がセイゼイと共通するが，取り上げる「程度性」は「数量的に多いか少ないか」に限り，事物をある基準で序列化したものの場合許容度が下がる点が異なるといえる。

3．2．テモ・トシテモ

とりたて用法のセイゼイと類似する表現としては，テモや，テモに動詞「する」を用いた複合的な形式トシテモ[*6]も挙げられる。先ほど多クテモと置き換えられないセイゼイ文として取り上げた㉛㉜㉝も，次のようにテモ・トシテモにすると置き換えが可能となる。

㉟ a　天が与えた品というものがある。その骨柄ではゆくゆくわしの侍大将はつとまるまい。セイゼイ歩卒じゃ。　（＝㉛）

b　天が与えた品というものがある。その骨柄ではゆくゆくわしの侍大将はつとまるまい。｛なれても／なれたとしても｝歩卒じゃ。

㊱ a　実は彼は欧洲に連れられて一度だけ狩猟に行ってみたことがある。それが並々ならず難行軍の猟であったため、彼は一度で懲々し、セイゼイステッキをかまえて獲物を撃つ気分だけを味わうにとどめているのであった。　（＝㉜）

b　実は彼は欧洲に連れられて一度だけ狩猟に行ってみたことがある。それが並々ならず難行軍の猟であったため、彼は一度で懲々し、｛やっても／やったとしても｝ステッキをかまえて獲物を撃つ気分だけを味わうにとどめているのであった。

㊲ a　筆者のような小市民のばあいは、セイゼイ浮世の面倒から離れて、出来もせぬわび住いを夢に恋う程度にすぎないが、この男のばあいは、たががパラリとはずれて、いっぴきの攻撃的生きものがうまれた。　（＝㉝）

b　筆者のような小市民のばあいは、｛考えても／考えたとしても｝浮世の面倒から離れて、出来もせぬわび住いを夢に恋う程度にすぎないが、この男のばあいは、たががパラリとはずれて、いっぴきの攻撃的生きものがうまれた。

これらテモ・トシテモは，従属節・副詞節等と呼ばれる節を構成する表現形式であるが，なぜそれらがとりたて用法のセイゼイ文と類似する意味を有するのであろうか。

これらのテモ・トシテモは，前田（1993）（2009）の「逆条件」のテモ・トシテモだと考えられる。前田（1993）（2009）は，テモをテ形のモによるとりたてと位置づける。そして，「通常はその帰結を引き起こさない条件・状況が，その条件関係を成立させる場合」（前田2009：192）である「逆条件」は，「意外」のモがとりたてたものであり，「裏にある種の条件的判断を持ち，それを「影」あるいは「他者」として示しながら「ｐの時ｑ」と言うことを意味する場合に用いられる」（前田2009：193）と説明する。例えば，

㊳「このカメラ、水にぬれたら、こわれてしまいますか。」

「いいえ、防水ですから、ぬれても、こわれません。」

（前田2009：192，26））

であれば，通常の条件文「水にぬれたら，こわれる」の条件・帰結の関係が否定され，通常なら成立しないだろうと予想される「水にぬれる」と「こわれない」とが，条件的な関係を取り結んだものということになる。

このように，テモ・トシテモ文は，テ形をモがとりたてる，とりたて用法の文であると考えられるわけだが，これだけで，とりたて用法のセイゼイ文と類似する意味を有するようになるわけではない。例えば，次の㊴では，トシテモをセイゼイに置き換えると許容度が下がるように感じられる。

㊴ A：この連休はどこかに行くのですか。

B：a　出かけるとしても、仕事持参だよ。

b ??セイゼイ仕事持参だよ。

これを，次の㊵のように，「ＸハＹクライダ」文にかえると，許容度が上がる。

㊵ A：この連休はどこかに行くのですか。

B：a　出かけるとしても、近くの買い物くらいだ。

b　セイゼイ近くの買い物くらいだ。

このことから，テモ・トシテモ文がとりたて用法のセイゼイ文と類似する意味に解釈される要因を，次のように考えることができる。すなわち，テモ・トシテモは，モによるテ形のとりたてと考えられることから，「ある種の条件的判断」が「他者」として想定されるものの，「ｐとしてもｑ」の「ｐ」と「ｑ」の関係は，逆条件としての関係性を有していればよく，ゼイゼイ文の特徴である「程度性」は必要ないのである。

例えば，㊴Baの「出かけるとしても，仕事持参だよ。」であれば，通常の条件文として想定される「出かけるとしたら，（例えば）海外旅行だ。」を「他者」とし，その条件・帰結の関係が否定されて，通常なら成立しないだろうと予想される「（連休に）出かける」と「仕事持参」が条件的関係を結ぶと理解されるものであり，「仕事持参」に「程度性」が想定される必要はない。しかし，とりたてのセイゼイ文は，２．で見たように，「ＸはＹ程度だ」というように，ある物事の程度性を問題とし，当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文である。

よって，「程度性」が想定されない㊴Bbの許容度が下がるのだと考えられる。

一方，㊵Ba「最大限出かけるとしても，近くの買い物くらいだ。」は，「ＸトシテモＹ程度ダ」文であり，「近くの買い物程度の連休の過ごし方だ」ということを述べる文だと考えられる。具体的には，㊵は，通常の条件文「最大限出かけるとしたら，海外旅行程度だ（＝その程度の十分な連休の過ごし方だ）」を「他者」とし，その条件・帰結の関係が否定されて，通常なら成立しないだろうと予想される「（連休に）出かける」と「近くの買い物くらいだ」が条件的関係を結ぶと理解されるものであると考えられるが，その後件部分に，「近くの買い物くらい→…→海外旅行程度」という「程度性」が想定されるのである。

先に挙げた㉟から㊲も，次のように「程度性」が想定される。すなわち，㉟であれば，「最大限なれたとしたら，侍大将」の後件が否定されて「最大限なれたとしても，歩卒」となり，「侍大将」と「歩卒」は「武士の階級」といった「程度性」が想定される。㊱は，例えば「最大限やったとしたら，狩猟」等の後件が否定されて「最大限やったとしても，ステッキをかまえて獲物を撃つ気分だけを味わう程度」となり，「狩猟」と「ステッキをかまえて獲物を撃つ気分だけを味わう」との間に「狩猟らしさ（より狩猟に近い行動か）」という「程度性」が想定される。㊲は，例えば「最大限考えたら，出世する」等の後件が否定されて「浮世の面倒から離れて，出来もせぬわび住いを夢に恋う程度」という関係になっており，「出世する」と「浮世の面倒から離れて，出来もせぬわび住いを夢に恋う」に「人生の目標・目的のレベル」といった「程度性」が想定されると考えられるのである。

以上のことから，とりたてのセイゼイ文と類似する文の特徴は，「他者を想定できるか」だけでなく，「程度性を問題とする文か」という点も，重要な特徴として挙げられるといえよう。すなわち，とりたて用法のセイゼイについては，「程度性を問題とする文か否か」という構文的特徴が重要な条件となっているのである。

4．おわりに

本稿では，とりたて用法のセイゼイについて，その構文的特徴を再考察し，〈ある物事の程度性を問題とし，当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文（節）である〉ことを示した。また，それを踏まえ，とりたて用法のセイゼイと類似する意味を有する他の表現，具体的には，多クテモ・テモ・トシテモについて，その特徴をセイゼイと比較することで分析し，先に示した構文的特徴が，とりたて用法の意味の生ずる重要な条件となっていることを指摘した。

本稿で指摘した，〈とりたて用法の意味が，いくつかの条件が重なることで生ずる場合がある〉ことは，「とりたてとは何か」を考える際にも重要になってくるように思われる。すなわち，単に「とりたて助詞」「とりたて副詞」自体の意味を記述するのではなく，意味の生ずる条件を分析的に記述することで，条件の重なり具合を比較する等の，とりたて表現間の関係性を捉えやすくなると考えられるのである。そのためには，類似する表現形式を丁寧に分析していく必要がある。他の表現形式についての分析は，今後の課題としたい。

【注】

＊1　セイゼイの２種類の用法については，森田（1989）に指摘があるが，森田（1989）が「ある限度内での努力を表す」用法と「“どんなに努力をしてみてもその限度を超えない”という逆の見方も成り立つ」用法というように，「努力」という視点で説明する点には疑問がある。詳細は安部（2006）を参照されたい。なお，グループ・ジャマシイ（1998）では，「できるだけ」と類似する用法を「慣用的な表現」としている。

＊2　例文はセイゼイ等対象とする表現形式を片仮名にかえ，必要に応じて下線等を削除，または付加している。

＊3　セイゼイが「……にすぎぬ（ない）」等と共起することについては，工藤（1977）にも指摘がある。グループ・ジャマシイ（1998）では「「せいぜい……くらい」の形でよく使う」と述べる。

＊4　⑩ｂについては許容度が上がると感じられる場合もあるかもしれないが，それは，当該例がセイゼイを「できるだけ」用法に解釈できるからだと思われる。ここで問題としているのは，セイゼイがとりたて用法で解釈される場合であり，⑩ｂは，とりたて用法では許容度が下がると考えられる。

＊5　同様の表現として「多クトモ」「多ク見積モッテモ」「多ク見テモ」等が挙げられる。日本語教育学会編（1982）では，「多クトモ」を「量や程度の限界を示し，副詞的に働くもの」（p. 401）とする。なお，「明日は欠席者が多そうだけれど会議を開くのですか。」「多くても開きます。」といった，従属節テモの用法は，3．2で扱う。

＊6　前田（2009）は，「逆条件」テモの場合における，動詞「する」を用いた複合的な形としてトシテモを挙げる。トシテモは，「ある事柄を仮定的に設定する述語「とする」の逆条件「ても」を伴う形なので，仮定性が一層強くなる」と述べる（p. 224）。

【用例出典】

「砂の女」＝安部公房「砂の女」，「女社長」＝赤川次郎「女社長に乾杯！」「ブン」＝井上ひさし「ブンとフン」，「裸」＝開高健「裸の王様」，「パニック」＝開高健「パニック」，「楡」＝北杜夫「楡家の人びと」，「聖少女」＝倉橋由美子「聖少女」，「新橋」＝椎名誠「新橋烏森口青春編」，「国盗り」＝司馬遼太郎「国盗り物語」，「若き」＝藤原正彦「若き数学者のアメリカ」，「塩狩峠」＝三浦綾子「塩狩峠」，「金閣寺」＝三島由紀夫「金閣寺」，「花埋み」＝渡辺淳一「花埋み」

以上，『CD-ROM版新潮文庫の百冊』（新潮社）による。「毎日2009」＝『CD−毎日新聞2009データ集本社版』による。

【引用文献】

安部朋世（2006）「副詞セイゼイの意味・用法と「とりたて」の在り方」『現代日本語文法　現象と理論のインタラクション』ひつじ書房，pp. 193–214
工藤浩（1977）「限定副詞の機能」『松村明教授還暦記念国語学と国語史』明治書院，pp. 969–986
工藤浩（1982）「叙法副詞の意味と機能―その記述方法をもとめて―」『国立国語研究所報告71　研究報告集３』国立国語研究所，pp. 45–92
工藤浩（2000）「副詞と文の陳述的なタイプ」『日本語の文法３　モダリティ』岩波書店，pp. 163–234
グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
日本語教育学会（1982）『日本語教育事典』大修館書店
前田直子（1993）「逆接条件文「～テモ」をめぐって」『日本語の条件表現』くろしお出版，pp. 149–167
前田直子（2009）『日本語の複文―条件文と原因・理由文の記述的研究―』くろしお出版
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店